

病院プロフィールシート

(青森地域)

「地域医療構想の進め方について」平成30年2月7日付け医政地発0207第1号抜粋

①公立病院・・・新公立病院改革プラン

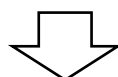
→民間医療機関との役割分担を踏まえ公立病院でなければ担えない分野へ重点化されているかどうかについて確認すること。

②公的医療機関等2025プラン対象医療機関・・・公的医療機関等2025プラン

→構想区域の医療需要や現状の病床稼働率等を踏まえ公的医療機関等2025プラン対象医療機関でなければ担えない分野へ重点化されているかどうかについて確認すること。

③その他医療機関・・・

→地域医療構想調整会議において、構想区域の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、遅くとも平成30年度末までに平成37（2025）年に向けた対応方針を協議すること。



地域医療構想を着実に進めるためには、各病院の機能や役割、今後の方向性等を関係者で共有することが必要であることから病院プロフィールシートの作成を提案（平成30年度）

目 次

1 青森県立中央病院・・・	1	12 芙蓉会病院・・・	25
2 青森市民病院・・・	3	13 村上病院・・・	27
3 浪岡病院・・・	5	14 村上新町病院・・・	29
4 平内中央病院・・・	7	15 浪打病院・・・	31
5 外ヶ浜中央病院・・・	9	16 あおもり協立病院・・・	33
6 国立病院機構青森病院・・・	11	17 佐藤病院・・・	35
7 松丘保養園・・・	13	18 青森敬仁会病院・・・	37
8 鷹揚郷腎研究所青森病院・・・	15		
9 青森慈恵会病院・・・	17		
10 青森厚生病院・・・	19		
11 青森新都市病院・・・	21		

【病院プロフィールシート】

病院名 青森県立中央病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	679	高度急性期(a)	564
療養病床(B)	0	急性期(b)	115
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	679	計(a+b+c+d+e+f)	679

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	679	高度急性期(g)	564
療養病床(H)	0	急性期(h)	115
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	679	計(g+h+i+j+k)	679

(病床機能報告の内容の考え方について)

・当院は、県全域を対象とした急性期医療、専門医療、政策医療を担っており、今後も全国レベルの高度・専門医療の確保が求められるため。

平均在院日数 一般： 11.6 日

病床利用率 一般： 83.8% 療養：－%

病床稼働率 一般： 91.1% 療養：－%

診療科 合計39科

(消化器内科、血液内科、呼吸器内科、腫瘍内科、呼吸器外科、外科、肝胆膵外科、乳腺外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、腫瘍放射線科、歯科口腔外科、形成・再建外科、緩和医療科、腫瘍心療科、循環器科、心臓血管外科、脳神経内科、脳神経外科、脳卒中診療部、内分泌内科、皮膚科、眼科、産科、新生児科、成育科、リウマチ膠原病内科、メンタルヘルス科、小児科、整形外科、産婦人科、麻酔科、リハビリテーション科、臨床遺伝科、救急部、総合診療部、集中治療部、高度治療部、放射線部)

主な紹介元医療機関 県総合検診センター、むつ総合病院、青森市民病院

主な紹介先医療機関 むつ総合病院、芙蓉会村上病院、青森慈恵会病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

基幹災害拠点病院、救命救急センター、臨床研修指定病院、
エイズ治療中核拠点病院、総合周産期母子医療センター、
都道府県がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、
第一種感染症指定医療機関、原子力災害拠点病院、
難病診療連携拠点病院

【主な患者像、地域の役割等】

- ・ 県立唯一の総合病院として、がん、循環器、脳神経、糖尿病の各センターを設置し、高度で専門的な医療を提供しているほか、救急医療、周産期医療などの政策医療も行っている。
- ・ また、急性期機能を担っていくため、回復期病院や、在宅医療、介護施設等との連携体制の充実・強化を図っている。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・ 今後も引き続き、県全域を対象とした急性期医療、専門医療、政策医療の提供を行っていきたいと考えている。
- ・ 病床規模については、病床利用率の状況や、高度・専門医療が必要な他地域からの流入患者への対応などを考慮すると、現状の規模を維持することが望ましいと考えている。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

- ・ 令和元年4月から、初診患者への支援と、入院を予定している患者への入院前の支援を実施する「入退院支援」を開始した。これにより、入院前から地域関係者との連携推進を図り、入退院の流れをスムーズにすることで在院日数の適正化等に取り組んでいる。現在、入退院支援の対象は一部の診療科となっているが、段階的に全ての診療科で実施する予定である。
- ・ 地域の医療機関や介護・福祉施設等との連携の充実・強化に努めている。

<訪問診療>

- ・ 特定の患者（神経難病）への訪問診療を行っている。

<後方支援>

- ・ 在宅医療の後方支援は行っていないが、地域の医療機関を対象に、施設・設備の共同利用や、資質の向上を図るための研修などを行っている。

<看取り>

- ・ 終末期の高齢患者が救命搬送されるケースが増加しており、救急医療現場の負担が課題となりつつあることから、県などと協力して、ACPの普及や、施設及び在宅での看取り推進など病院以外での看取り体制を確保するための取組を進めている。

【病院プロフィールシート】

病院名 青森市民病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	459	高度急性期(a)	23
療養病床(B)	0	急性期(b)	436
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	459	計(a+b+c+d+e+f)	459

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	459	高度急性期(g)	23
療養病床(H)	0	急性期(h)	436
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	459	計(g+h+i+j+k)	459

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院は、おおよそ月230件の手術（内 全身麻酔の手術は120件程度）を実施しています。また、救急告示病院として、二次輪番制に参加し、月215件程度、救急車の受入れを行い、救急医療を実施し、急性期病院としての機能を有しているところです。

これらのことから、当院は、I C U、H C U病棟以外の病棟は全て急性期病床として報告しております。

平均在院日数 一般：11.8日
(2018年7月～2019年6月)

病床利用率 一般：66.8% 療養：－%
(2018年7月～2019年6月)

病床稼働率 一般：72.5% 療養：－%
(2018年7月～2019年6月)

診療科 合計20科

(糖尿病・内分泌内科、循環器・呼吸器内科、消化器内科、精神神経科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、形成外科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院、芙蓉会村上病院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、芙蓉会村上病院、弘前大学医学部附属病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・平成24年に地域医療支援病院の承認を受け、地域の医療機関との連携を推進しており、紹介患者中心の医療提供を行っています。

・平成30年10月には、医療需要に見合う病床規模の検討を行い、病床稼働率を踏まえた上で、病床数を79床廃止し、459床としました。

・循環器系疾患、消化器系の疾患の入院が多く、内視鏡手術に対応しています。

・これまでのがん医療提供体制が評価され、平成25年に青森県がん診療連携推進病院の指定を受け、平成30年10月にはがん診療推進室を設置し機能強化を図っています。

・地域医療の充実と公共福祉の増進に寄与すべく、安全で良質な医療の提供と信頼される病院を目指し、病診連携、病病連携に努めています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・現在、病床機能報告では、I C U、H C Uを除き、病床の医療機能を全て急性期として報告していますが、当面は急性期病院としての現状の機能を維持しつつ、他の回復期病院やクリニック等との連携強化を図ります。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

地域医療連携室を中心に専任の看護師と社会福祉士などが連携し、ご家族の希望を踏まえた退院計画を立て、的確な退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

現在、訪問診療は行っていないが、地域の医療機関等との連携強化に努めています。

<後方支援>

救急外来を中心に、地域の医療機関患者の病状が急変した際に、必要な受入れを行っています。

<看取り>

現在看取りは行っておりません。

【病院プロフィールシート】

病院名 青森市立浪岡病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	35	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	35
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	35	計(a+b+c+d+e+f)	35

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	35	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	35
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	35	計(g+h+i+j+k)	35

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・近年の病床利用率と今後の医療需要を踏まえ、平成30年10月1日から、許可病床92床（急性期）から35床（急性期）にダウンサイジングしました。

平均在院日数 一般：13.5日

病床利用率 一般：44.7% 療養：-%

病床稼働率 一般：48.0% 療養：-%

診療科 合計7科

(内科（心臓内科含む）、外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、精神神経科)

主な紹介元医療機関 弘前大学医学部附属病院、黒石病院、国立弘前病院

主な紹介先医療機関 弘前大学医学部附属病院、黒石病院、国立弘前病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・当院は、救急告示病院としての役割を担いながら、一般病床35床を有する公立病院として地域医療の確保に努めてきました。
- ・近年患者数が常勤医師の異動等を理由に減少傾向にあり、建物・設備の老朽化が著しい状況となっています。
- ・今後も地域住民の健康管理、疾病の治療や予防の基幹となる病院として、更には高齢者医療にも応えられる機能を維持し、地域に密着した施設としての役割を担っていくため、現在、一般病床数35床の規模で建替事業を進めているところです。
- ・新病院の開院は、令和3年5月頃を予定しております。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・診療科目は現行の診療科を継続することとし、引き続き救急告示病院としての役割を担うとともに、在宅医療サービスの提供にも注力します。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の看護師（社会福祉士の資格を有する看護師を含む）が退院支援に取り組んでおります。

<訪問診療>

令和元年度は、11月末時点で有料老人ホーム1施設（17人）、ご自宅4世帯（4人）の患者に対し訪問診療を行いました。

<後方支援>

救急外来を中心に、地域の医療機関患者の病状が急変した際に、必要な受入れを行っています。

<看取り>

患家の求めに応じ、積極的に対応しています。

【病院プロフィールシート】

病院名 平内町国民健康保険平内中央病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	48	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	48	急性期(b)	0
		回復期(c)	48
		慢性期(d)	48
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	96	計(a+b+c+d+e+f)	96

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	48	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	48	急性期(h)	0
		回復期(i)	48
		慢性期(j)	48
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	96	計(g+h+i+j+k)	96

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院の診療報酬上の機能と病床機能報告での内容は以下のとおりです。

西病棟 48床 うち、急性期一般入院料 5 15床 急性期
 地域包括ケア入院医療管理料 1 33床 回復期
 東病棟 48床 うち、療養病棟入院基本料 1 48床 慢性期

※1病棟中の機能で回復期の方が多いため、報告上は西病棟を回復期として申告

- ・地域の病院として、救急患者の受け入れと時間外対応、急性期を経た患者の受け入れ、長期の療養やリハビリテーションを要する患者の受け入れを行っています。

- ・将来的に町の人口は減少することが予想されますが、高齢化比率の高い町であり、医療需要自体は2025年時点でも大きく減らないと考えており、現在の機能を維持する予定としております。

平均在院日数 一般：40.0日

病床利用率 一般：85.5% 療養：88.0%

病床稼働率 一般：87.7% 療養：88.6%

診療科 合計11科

(内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、皮膚科、眼科、脳神経外科、
 休診(小児科、婦人科、麻酔科))

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、ひきち内科クリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、ひきち内科クリニック

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・当院の患者像として、高血圧や高脂血症、糖尿病といった生活習慣病のほか、腰痛や骨折といった外科的疾患が多いが、後期高齢者の患者が多いため、急性増悪や合併症のリスクがあり、結果的に急性期から慢性期までの病態が混在する形となっています。
- ・近年では在宅療養支援病院として在宅医療にも力を入れており、訪問診療はもちろんのこと、訪問看護、訪問リハビリテーションの件数も年々増加してきています。
- ・開放型病院として、地域のクリニックとの連携も行っており、定期的な病診連携会議も開催しております。
- ・糖尿病教室等も行っており、予防医療にも力を入れております。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在の病床数や機能については、平内町での当院の役割を考慮して、平成26年頃より計画的に進めてきた結果であり、完成とは言わないまでも当時の急性期病院としての側面よりも、サブアキュート・ポストアキュートとしての側面を強化し、病床利用率も80～90%を推移していることから、町の医療需要に応える形で整備されており、現時点での病床規模の見直しは考えておりません。
- ・今後の未来像としては、一般病棟と療養病棟の間での病床数の変更は想定されますが、概ね現状と同じ機能を維持し、医療の提供を実施していく予定です。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

病棟の看護師及びコメディカルスタッフと社会福祉士がチームで、ご家族・ご本人の希望を確認し、計画的に退院支援を行っております。

<訪問診療>

現在は平内町内に限定し、自宅や有料老人ホーム等の患者に訪問診療を行っております。徐々に利用される患者が増えています。

<後方支援>

町内のクリニックが担当する患者の病状が急変した際に、当院で受け入れできるよう、常日頃から連携をとっております。

<看取り>

町内のクリニックの医師の先生方々と連携しながら、患者家族の希望に添うよう積極的に対応していけるよう検討しております。

【病院プロフィールシート】

病院名 外ヶ浜町国民健康保険外ヶ浜中央病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	44	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	0
		回復期(c)	44
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	44	計(a+b+c+d+e+f)	44

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	44	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	0
		回復期(i)	44
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	44	計(g+h+i+j+k)	44

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、現在、1病棟（一般病棟15対1地域一般入院料3）を回復期として報告しています。
- ・救急告示病院として二次救急医療を担い、月22件程度の救急車の受入れを行い、救急医療を実施しています。
- ・将来的には、高齢者や人口減少等による回復期相当の患者の増加を見込んでおり、一般病床の一部を地域包括ケア病床へ転換することを検討しています。

平均在院日数 一般：26.6日

病床利用率 一般：84.7% 療養：－%

病床稼働率 一般：87.8% 療養：－%

診療科 合計5科

(内科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 今別診療所、三厩診療所、田澤内科

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・当院は蓬田村以北唯一のリハビリ機関として地域連携パス（骨折・脳卒中）等の回復期の役割を担い、急性期からの転院を積極的に受入れ、維持期施設へのスムーズな移行支援を行っている。
- ・へき地医療拠点病院に指定され、近隣町村診療所等へ応援医師を派遣しているほか、医療圏域内各施設（特養、グループホーム等）での定期的な往診も行っている。
- ・当院診療圏域は高齢化率が非常に高く、認知症等で在宅ケアが困難な症例等、医療提供だけでは解決できないケースが多々あることから、当院は地域の関係機関等との連携を密にし、地域包括ケアシステム構築の中心的役割を担っています。
- ・地域の身近な病院であることを目指し、開業医との病診連携、より高度な医療機能を有する病院との病・病連携、更には介護施設等との連携に力を入れています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在、病床機能報告では病床の医療機能を全て回復期として報告していますが、将来の回復期医療需要の増加見込みを踏まえ、今後も維持継続するとともに一般病床の一部を地域包括ケア病床へ転換することを検討しています。
- ・病床利用率が比較的高水準で推移しているが、人口減少による患者数の逓減が見込まれることから、今後の患者数の動向によっては病床規模の見直しを行います。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の退院支援担当者（社会福祉士、保健師）が連携し、ご本人・ご家族の希望に添った退院計画を立て、退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

併設する老健を含め、近隣町村 **10施設（約300人）** の訪問診療及び外来通院患者の希望者に対し月1～2回程度の **在宅医療の提供** を行っています。

<後方支援>

当院が **在宅医療の提供を行っている** 患者のほかに近隣町村のクリニックが担当する患者の検査や急変時における必要な受入れを行っています。

<看取り>

患者の求めに応じ、積極的に対応していきたいと考えています。

【病院プロフィールシート】

病院名 独立行政法人国立病院機構青森病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	300	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	0
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	300
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	300	計(a+b+c+d+e+f)	300

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	300	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	0
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	300
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	300	計(g+h+i+j+k)	300

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は現在、7 個病棟（いずれも障害者施設等 7 対 1 入院基本料）の全てを慢性期として報告しています。
- ・病床が高い水準で稼働していることから、現時点での病床規模の見直しは考えておりません。

平均在院日数 一般：193.4日

病床利用率 一般：95.1% 療養：－%

病床稼働率 一般：95.5% 療養：－%

診療科 合計 17 科

(内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、アレルギー科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科)

主な紹介元医療機関 大竹整形外科、青森市立浪岡病院、弘前大学医学部附属病院

主な紹介先医療機関 大竹整形外科、弘前大学医学部附属病院、青森市立浪岡病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・神経系、小児系の慢性期の医療機能を担い、医療圏を越えて地域のニーズに応えています。
- ・障害者医療を総合的に実施するため、外科、脳神経外科、皮膚科、放射線科、歯科口腔外科等の医療機能を担っています。
- ・小児救急医療においては、津軽地域小児救急二次輪番病院の医療機能を担っています。
- ・重症心身障害、筋ジストロフィー、神経難病、結核の政策医療を担っています。
- ・医療型短期入所、日中一時支援等の福祉サービスの機能を担っています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・セーフティーネット分野の医療における地域にとって不可欠な医療機関としての機能を維持します。
- ・重症心身障害においては、県内3施設のうち津軽地方（青森地域、津軽地域、西北五地域）における唯一の医療型障害児入所施設としての機能を維持します。
- ・地域のニーズに応じた短期入所、通所事業等の障害福祉サービスの提供を継続します。
- ・筋ジストロフィーにおいては、**青森県**における専門医療機関としての機能を維持します。
- ・神経難病においては、青森県における難病医療協力病院としての機能を維持します。
- ・結核においては、**青森県や関係機関と運営協議を行いながら**、青森県における結核指定医療機関としての機能を維持します。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専従の社会福祉士と専任の看護師、病棟・外来看護師等が連携し、ご本人・ご家族の希望に添った退院支援計画を立て、地域の関係機関との連携を図りながら退院支援を実施しています。

<訪問診療>

当院に外来通院しながら地域の医療機関で往診等をしていただいている方の状態が悪化した際に、必要な受け入れを行っているため、訪問診療は行っておりません。

<後方支援>

在宅の患者様が急変し他の医療機関へ搬送され治療が落ち着いた際に、リハビリまたは在宅調整、長期療養等の目的での転入院の受け入れを行っています。

<看取り>

当院に外来通院しながら地域の医療機関で往診等をしていただいている方の状態が悪化した際に、必要な受け入れを行っているため、看取りは行っておりません。

【病院プロフィールシート】

病院名 国立療養所松丘保養園

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	5	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	0
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	5
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	5	計(a+b+c+d+e+f)	5

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	5	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	0
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	5
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	5	計(g+h+i+j+k)	5

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当園は、現在、1病棟（いずれも一般病棟入院基本料（特別入院基本料））全てを慢性期として報告しています。

平均在院日数 一般：0日

病床利用率 一般：20.0% 療養：－%

病床稼働率 一般：20.0% 療養：－%

診療科 合計6科

(内科、外科、眼科、耳鼻科、皮膚科、歯科)

主な紹介元医療機関 無

主な紹介先医療機関 無

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・当園は、従来よりハンセン病医療を担ってきており、治療により治癒した後も末梢神経障害、視覚障害などのハンセン病後遺症による機能障害に加えて、加齢による全身的合併症を持つ高齢の患者に対する医療を提供しているため、積極的な患者の受け入れは行っていません。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在、病床機能報告では、病床の医療機能を全て慢性期として報告しています。
- ・当園の特殊性も鑑み、現時点での病床規模の見直しは考えていません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

医師・看護師と医療社会専門員などが連携し、的確な退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

行っていません。

<後方支援>

行っていません。

<看取り>

患家の求めに応じ、積極的に対応していきたいと考えています。

【病院プロフィールシート】

病院名 公益財団法人 鷹揚郷腎研究所青森病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	45	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	0
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	45
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	45	計(a+b+c+d+e+f)	45

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	45	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	0
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	45
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	45	計(g+h+i+j+k)	45

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、現在、1病棟（一般病棟10対1入院基本料）全てを慢性期として報告しています。
- ・おおよそ月134件の手術（内、全身麻酔の手術は2件程度）を実施しています。

平均在院日数 一般：11.8日

病床利用率 一般：70.9% 療養：－%

病床稼働率 一般：76.9% 療養：－%

診療科 合計4科

(泌尿器科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、楠美泌尿器科クリニック、さわだクリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、のへじクリニック

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・（一社）日本泌尿器科学会の泌尿器科専門医教育施設（拠点教育施設）に認定されています。
- ・当院は、泌尿器科専門病院として腎尿管結石治療や前立腺肥大症の治療などに対し内視鏡治療を行っています。また、透析治療を受けることのできない患者さんが発生しないよう、透析ベッド、透析機器等の整備を適宜行い、合併症等で重症化した透析患者さんや高齢により手厚い治療や看護が必要な透析患者さんを積極的に受け入れています。
- ・地域の身近な病院であることを目指し、開業の先生方との病診連携、より高度な医療機器を有する病院との病病連携、更には介護施設との連携に力を入れています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在、病床機能報告では、病床の医療機能を全て慢性期として報告していますが、急性期・回復期相当の患者さんも相当数入院しており、また、将来の慢性期の医療需要の増加を踏まえ、病床が更に高い水準で稼働していくことを見込んでいることから、現時点での病床規模の見直しは考えていません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

医師、看護師、理学療法士、ケースワーカーなどが連携し、ご家族の希望に沿った退院計画を立て、的確な退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

現在は行っていません。

<後方支援>

他のクリニックなどが担当する患者さんの病状が急変した際に、必要な受け入れを行います。

<看取り>

現在は行っていません。

【病院プロフィールシート】

病院名 社団法人慈恵会 青森慈恵会病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	106	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	106	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	144	急性期(b)	106	療養病床(H)	144	急性期(h)	106
		回復期(c)	144			回復期(i)	144
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	0
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	250	計(a+b+c+d+e+f)	250	計(G+H)	250	計(g+h+i+j+k)	250

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院のベッド数332床からなり、その病床区分は以下のようになっています。

○一般病床106床：84床 DPC対象病床（急性期一般入院料5 10対1）

22床 緩和ケア病棟

○療養病床144床：96床 回復期リハ病棟

48床 地域包括ケア病棟

○精神病床82床：82床 認知症治療病棟

入院患者は月平均150～170名で、今年度は紹介率57.9%、逆紹介率40.9%となっています。また救急告示病院として、2次救急を担い、月平均16件程度、救急車の受け入れを行っており、急性期から慢性期まで、患者さんの様々な病状、病期に柔軟に対応できるように、ケアミックス型病床群の形態を運営しています。

今後は、より充実した地域包括ケア構築のため、高度急性期病院や他の医療・介護機関との連携をさらに強化しながら、現行のケアミックス体制の質向上に努めていきたいと考えています。

病床利用率 一般：86.1% 療養：96.8%

平均在院日数 一般：10対1 17.2日 一般：87.4%（緩和ケア）

一般：緩和ケア 41.3日 病床稼働率 一般：91.1% 療養：99.1%

一般：89.6%（緩和ケア）

診療科 合計14科

（内科、外科、整形外科、循環器科、呼吸器科、消化器科、泌尿器科、リハビリテーション科、精神科、漢方内科、皮膚科、麻酔科、アレルギー科、リウマチ科）

主な紹介元医療機関

青森県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院

青森整形外科クリニック、武山循環器科クリニック、ひがし整形外科クリニック

主な紹介先医療機関

青森県立中央病院、青森市民病院、青森厚生病院

武山循環器科クリニック、さくらだ整形外科クリニック、協立クリニック

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

各病棟ごとの状況について

- ①急性期 平均在院日数17日。手術は、整形外科専門医6名、麻酔科医4名の体制で、整形外科手術を中心に全身麻酔手術を月平均50～70件を実施。内科混合病棟では、誤嚥性肺炎や心不全、脳卒中といった疾病を対象に、急性期リハ、NSTなど積極的に行い、高齢者の在宅復帰向上に努めています。
- ②療養病床の実績（今年度）は回復期全体で、在宅復帰率約80%、重症患者割合31%以上、重症患者改善割合61%、FIM実績43.29、地域包括病棟では、在宅復帰率79%、重症患者割合14%と、在宅復帰率向上に努めています。
- ③緩和ケアでは、月平均15名の患者を受入れ（入院待機期間6日）、在宅復帰率 19.2%、26名の看取りを実施しています。
- ④認知症病棟を中心に、ユマニチュード手法を導入し、身体拘束ゼロを目標に各病棟で認知症ケアを展開しています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ①当面は現状の病床数、機能で運営する予定ですが、状況に応じて変更する可能性はあると考えています。
- ②当院の役割は、高度急性期病院や他医療機関で急性期治療を終えた患者さん(post acute)の受け入れ機能と、高度急性期の治療を受けるまでもない病状の患者さんの受け入れ（地域の駆け込み寺）機能を有していると考えています。また患者さんが退院後も安心して暮らせるよう、他の医療機関や介護施設等と積極的に連携し、その橋渡し役として重要な役割があると考えています。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の社会福祉士6名が、地域の介護施設等との連携を図り、ご家族の要望に沿った退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

有料老人ホーム入居者60名、在宅緩和訪問診療（20名程度）を実施しています。

<後方支援>

当院が訪問診療している患者のほか、介護施設等の急変した患者に対し、必要な診療受入れ（外来・入院）を行っています。

<看取り>

患家さんの要望に応じ、在宅緩和訪問診療患者の看取りを実施しています。

在宅緩和 訪問診療

平成28年度 499件 平成29年度 398件 平成30年度 438件

看取り件数

平成28年度25件 平成29年度33件 平成30年度26件

【病院プロフィールシート】

病院名 一般財団法人双仁会 青森厚生病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	169	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	113	急性期(b)	111
		回復期(c)	58
		慢性期(d)	55
		休棟中	58
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	58
計(A+B)	282	計(a+b+c+d+e+f)	282

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	111	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	113	急性期(h)	111
		回復期(i)	58
		慢性期(j)	55
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	58
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	224	計(g+h+i+j+k)	224

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は現在急性期一般入院料4（急性期）を2病棟、地域包括ケア病棟入院料2（回復期）を1病棟、療養病棟入院料1（慢性期）を1病棟、休止病棟1病棟で報告しております。
- ・青森市西地区及び東津軽郡等の地域を視野に入れ、急性期・回復期・慢性期・在宅を一体的に医療サポートできるように病床編成を行いました。
- ・救急告示病院として、月12名程度の受入実績となっています。
- ・将来的に休止病棟は地域の患者減少及び職員の確保の困難なため、どのような機能にするか廃止も視野に入れ検討中です。

平均在院日数 一般：14.7日

病床利用率 一般：75.4% 療養：80.1%

病床稼働率 一般：80.5% 療養：81.7%

診療科 合計11科

(内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、消化器外科、心臓血管外科、婦人科、整形外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院

主な紹介先医療機関 県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・当院は循環器内科ではペースメーカー・心臓カテーテル検査、呼吸器内科では肺癌やCOPDを含む呼吸器疾患全般・人工呼吸器管理、外科では胆石・ヘルニアの腹腔鏡下手術や消化器癌や乳癌の手術及び化学療法・緩和医療、整形外科では肩・膝の関節鏡手術・スポーツ選手の治療およびリハビリテーション、婦人科では癌検診を含む外来診療を主に行っています。
- ・当院は急性期・回復期・慢性期の病棟を持っており、病状の段階別に診療を行える体制になっています。
- ・訪問診療・みなし訪問看護を実施し、自宅・在宅施設の医療支援を行っています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・基本的な病床機能は現行通りの予定です。休止病棟については前述の通り、どのような機能にするか廃止も視野に入れ継続して検討中です。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専従の社会福祉士1名、専任の社会福祉士2名、専任の看護師1名体制で退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

平成30年4月に開設し、H30年度は273件、R1年度11月までは335件 訪問診療しています。

青森市西地区を中心に介護施設や自宅の患者に訪問しています。

<後方支援>

当院で訪問診療・訪問看護を行っている患者の他、協力医療機関になっている施設の患者の後方支援を行っています。

<看取り>

緩和医療及び、医療管理をしながらの療養を要する等患者の看取りを行っています。

【病院プロフィールシート】

病院名 医療法人雄心会 青森新都市病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	191	高度急性期(a)	8
療養病床(B)	0	急性期(b)	138
		回復期(c)	45
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	191	計(a+b+c+d+e+f)	191

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	191	高度急性期(g)	8
療養病床(H)	0	急性期(h)	138
		回復期(i)	45
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	191	計(g+h+i+j+k)	191

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、脳梗塞、くも膜下出血及び脳出血などの脳血管疾患、消化管疾患や重症肺炎などの重症患者、全身麻酔下での大手術後の術後管理を要する患者に対し、高度な医療を提供する病床（1病棟8床）を高度急性期機能として、その他脳卒中、外傷、がん、消化器系疾患などの急性期の患者に対し、医療を提供する病床(3病棟138床)を急性期機能として、急性期を経過した脳血管疾患等の患者に対し、機能回復やADLの向上を目的とした集中的リハビリテーションを提供する病床(1病棟45床)を回復期機能として報告しています。
- ・なお、地域の医療需要等を見極めた結果、**平成29年7月**に1病棟45床を急性期機能から回復期機能に転換しました。
- ・**6年後**の2025年も当院が担う医療機能に変更がないものとして報告しています。

平均在院日数 一般： **18.7日**

病床利用率 一般： **81.9%** 療養：－％
 病床稼働率 一般： **86.3%** 療養：－％

診療科 合計 16科

(脳神経外科、形成外科、整形外科、消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科、外科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、内科、リハビリテーション科、放射線腫瘍科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、**青森厚生病院、鷹揚郷腎研究所青森病院**

主な紹介先医療機関 青森厚生病院、**青森県立中央病院、青森市民病院**

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

〔主な認定・指定施設等〕

- ・一般社団法人 日本脳卒中学会 一次脳卒中センター（P S C）認定
- ・一般社団法人 日本形成外科学会 認定施設（教育関連施設）
- ・公益社団法人 日本麻酔科学会麻酔科 認定病院
- ・公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 研修施設

・救急告示病院として輪番制に参加し、二次救急医療機関として現在は救急車を約90～100件/月を受入れております。また、手術件数は、約80～90件/月を行い、そのうち約半数近くが全身麻酔を伴う手術となっており、その医療需要は増加傾向にあります。

・脳卒中や頭部外傷などの緊急を要する疾患に対して、緊急に対応できるよう体制を整備し、必要に応じて開頭及びカテーテルによる血管内手術などの緊急手術を行っています。

・胃がん、大腸がんなどの消化器悪性腫瘍をはじめ、様々な消化器疾患に対し腹腔鏡下手術を行っており、緊急手術にも対応しています。

・乳癌に対する診断、手術、再発予防から再発治療までの乳癌診療を行っています。日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会のインプラント・エキスパンダー実施施設の認定を受けおり、形成外科との連携で乳房再建術にも取り組んでいます。

・がん治療には、高精度放射線治療装置を導入し、様々な部位への強度変調放射線治療や脳定位放射線治療などを行っており、手術や薬物療法との併用による集学的治療も行っています。

・地域の医療機関との密接な連携を目指しており、近隣の医療機関、介護施設等を中心に協力医療機関として提携し、病病・病診・病介連携に努めています。また、当院が保有する高機能診断装置、その他検査医療機器等を地域の医療機関の先生方に有効活用していただくよう取り組んでいます。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・青森地域保健医療圏では、人口減少するものの高齢化に伴い増加が見込まれる脳卒中、がん及び急性冠症候群などを中心に急性期医療を提供し、より高機能の体制構築を目指しています。

・救急医療では、特に夜間・休日等、公益性の高い救急医療の提供体制の充実と他の救急医療機関との連携強化を図り、三次救急医療機関の負担の軽減と地域の救急医療体制の構築に寄与したいと考えています。

・現時点では病床機能や病床数等の見直しは考えておりませんが、青森市西地区の二次救急医療機関として、各データを元に地域における医療の在り方、地域のニーズに合わせた転換も視野に入れながら、実情に応じた幅広い医療を担うことができるよう努めます。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

各病棟に専任の社会福祉士等を配置し、入院早期から退院困難な要因を有する患者に対し、退院支援計画を作成し、患者及びご家族、主治医、担当看護師、セラピスト、その他必要に応じた職種と退院に向けた支援を行っています。今後は専任職種の充実と退院支援と退院調整の両者の機能がバランスよく提供できるよう努めてまいります。

<訪問診療>

青森市内において、施設及び自宅療養を行っている約35～40名の患者に訪問診療を行っています。今後は在宅医療のニーズに合わせ、地域の在宅主治医、医療・介護の関係機関への紹介を含め連携強化し、在宅療養体制の充実を推進していく考えです。

<後方支援>

24時間365日救急医療体制を敷いており、在宅療養患者の容体急変時の受入れにも取り組んでいます。在宅医療を後方支援する体制を強化するために、地域の診療所や施設との連携を図っていきたいと考えています。

<看取り>

現時点で、在宅療養患者の看取りはございません。今後、求めに応じ、地域の在宅主治医、医療・介護の関係機関への紹介を含め連携強化し、在宅療養体制の充実を推進していく考えです。

【病院プロフィールシート】

病院名 医療法人芙蓉会 芙蓉会病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	0	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	53	急性期(b)	0
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	53
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	53	計(a+b+c+d+e+f)	53

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	0	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	53	急性期(h)	0
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	53
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	53	計(g+h+i+j+k)	53

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院は現在医療療養病棟を14床、介護療養病棟39床を持っており慢性期として報告しております。

入院の内訳をみますと、他病院、診療所からの入院が**52.3%**となっており次いで転棟が**47.7%**でした。退院の内訳は、死亡退院が**79.1%**、転院が**16.3%**でした。

入院稼働については高水準を維持しております。慢性期のニーズは今後の高齢化が進むにつれ高まると思われる、今すぐに変更などとは考えていない状況となります。

平均在院日数 一般：－ 日

病床利用率 一般：－％ 療養： **97.0%**

病床稼働率 一般：－％ 療養： **97.2%**

診療科 合計5科

(内科、精神科、心療内科、老年精神科、児童精神科)

主な紹介元医療機関 村上病院、青森新都市病院、あおもり協立病院

主な紹介先医療機関 村上病院、県立中央病院、あおもり協立病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

当院の療養病棟は開設以来医療・介護のミックス病棟で運営されてきました。高齢化が進むにつれ医療必要度も増してきております。

また、療養病棟の他にも精神病棟が354床有り認知症患者の合併症についても療養病棟を構えることにより、スムーズに対応できます。

今後も、当院理念でもある「だれからも愛される病院を目指します」をスローガンに安心できる地域に必要とされる医療を提供してまいります。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

現在、療養病棟については必要性があるものの昨今の医療介護情勢動向から介護医療院への転換について検討を進めています。しかしながら医療必要度の高い患者に対して介護医療院で対応できるかどうかなど細かな点について協議を進めてまいります。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の看護師とケアマネージャー、社会福祉士、精神保健福祉士などが連携し、ご家族の希望に沿った退院計画を立てております。

<訪問診療>

実施しておりません。

<後方支援>

実施しておりません。

<看取り>

実施しておりません。

【病院プロフィールシート】

病院名 医療法人芙蓉会 村上病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	80	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	40	急性期(b)	0
		回復期(c)	120
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	120	計(a+b+c+d+e+f)	120

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	80	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	40	急性期(h)	0
		回復期(i)	120
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	120	計(g+h+i+j+k)	120

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は一般病棟（急性期一般入院料5）と2病棟（一部 地域包括ケア入院医療管理料1）と療養病棟（回復期リハビリテーション病棟入院料1）をすべて回復期として報告しています。これは急性期からの受け入れ件数が月30件以上であることと、当院が救急告示病院ではないためです。
- ・当院は在宅支援病院の機能強化型を届け出ております。
- ・今後の構想としては現状体制の維持と地域連携を深め地域の在宅医療の後方支援の役割も担えるよう目指す。

平均在院日数 一般： 17.9日

病床利用率 一般： 88.6% 療養： 93.8%

病床稼働率 一般： 92.6% 療養： 95.6%

診療科 合計10科

(内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、脳神経内科、心療内科、整形外科、血管外科、泌尿器科、精神科、皮膚科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、芙蓉会病院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、芙蓉会病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・当院は、整形外科の手術をはじめ、消化器内科の早期内視鏡手術、下肢静脈瘤のレーザー治療に対応しています。

基本急性期手術ではなく、亜急性期、慢性期手術です。

・訪問診療を実施しており、24時間対応の往診も可能な体制をとっています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

国の施策ならびに地域の構想を鑑みても、現在の当院の立ち位置からして現体制で維持していく予定です。

ただ、仮に変革があったとすれば、地域包括ケアと一般病棟の割合をより地域包括ケアのほうを増やしていく形が可能性としてはあります。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の看護師と社会福祉士などが連携し、ご家族の希望に添った退院計画を立て、的確な退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

市内において自宅・施設入居者含め150名程度の患者に対し訪問診療を実施しています。

<後方支援>

現在は当院単独での在宅医療がメインであることから近隣の後方ベッドの役割も担いたいと考えます。

<看取り>

訪問診療の患者の看取り往診をはじめ、患者本人ならびに家族の意向によっては病院での看取りの対応もしています。

【病院プロフィールシート】

病院名 村上新町病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	46	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	32	急性期(b)	46
		回復期(c)	32
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	78	計(a+b+c+d+e+f)	78

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	46	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	32	急性期(h)	46
		回復期(i)	32
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	78	計(g+h+i+j+k)	78

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、現在、急性期一般入院料1（7対1）と療養病棟入院料1（うち16床は地域包括ケア入院医療管理料2）の届出を行っております。
- ・救急告示病院として、年間160件程度の救急車の受け入れ、また救急車以外の夜間・休日の救急患者は年間500件程度受け入れしております。
- ・手術については、血管外科手術が年間150件程度、整形外科手術が20件、その他ペースメーカーの移植・交換術等を行っております。
- ・将来的にも現状と変わらぬ病床の配置で、急性期から回復期の機能を担い、在宅復帰の支援を行っていく予定です。

平均在院日数 一般：17.6日

病床利用率 一般：98.93% 療養：98.7%

病床稼働率 一般：104.25% 療養：100.1%

診療科 合計16科

(内科、小児科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、外科、心臓血管外科、血管外科、整形外科、肛門外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 中道医院、成田祥耕クリニック、青森クリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、弘前大学医学部附属病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・内科を中心に16の診療科目を標榜しておりますが、特に循環器内科と腎臓内科に力を入れており、連携医療機関より多数の患者を紹介して頂いております。
- ・日本透析医学会より、弘前大学医学部附属病院の教育関連施設として認定を受けております。
- ・全日本病院協会からは、災害時医療支援活動指定病院と指定を受けております。
- ・この地で開業して40年が経ちますが、この地域は青森市内においても高齢化率の高い地域であり、古くから市場や商店を営んできた方々や住民の皆さんのかかりつけ医となっております。
- ・また、そうした方々が在宅医療を継続していけるよう支援しております。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・病院の老朽化に伴い、駅前に新病院の建替えを計画しております。
- ・現在の機能を継続しながら、地域包括ケアシステムの更なる強化のため、介護保険施設を併設した複合施設を予定しております。
- ・青森市とも協力しあい、中心市街における医療・介護連携の拠点となる施設を整備する予定です。
- ・これにより、医療・介護の切れ目のないサービスを提供でき、患者及び家族にとって安全・安心をもたらすことができると考えております。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

病棟・外来看護師、社会福祉士、リハビリスタッフなどの多職種が連携し、ご本人、ご家族の希望に沿った退院支援計画を立て、早期に在宅復帰が出来るよう取り組んでおります。

<訪問診療>

青森市内において、介護施設1施設（29人）、**自宅3世帯**に対して訪問診療を行っております。

<後方支援>

地域のクリニックと連携をとりながら、精密検査や入院加療が必要な患者の受け入れを行っております。また、緊急時においてもスムーズに受診ができるよう、24時間受け入れ体制を整えております。

<看取り>

ご家族の要望にあわせ、訪問看護師や介護支援専門員、多職種と連携をとりながら対応しています。今年度は現在までで**6名**の看取りを行いました。

【病院プロフィールシート】

病院名 医療法人 同仁会 浪打病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	37	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	32	急性期(b)	37
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	32
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	69	計(a+b+c+d+e+f)	69

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	37	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	32	急性期(h)	37
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	32
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	69	計(g+h+i+j+k)	69

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院は、一般病棟、及び療養病棟 1 を報告しています。

将来的には回復期への転換を予定しています。

平均在院日数 一般： 34.6 日

病床利用率 一般： 76.7% 療養： 66.8%

病床稼働率 一般： 78.9% 療養： 67.3%

診療科 合計 5 科

(内科、外科、呼吸器科、整形外科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 県立中央病院、クリニック、協立病院

主な紹介先医療機関 県立中央病院、有料老人ホーム、グループホーム

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

当院は、緩和ケアの患者様、ターミナルの高齢患者様等、慢性期の患者様、大腿骨パスや、リハビリ目的の患者様で構成されております。

創設以来、地域の患者様の診療に力を入れてまいりました、今後も地域に貢献できるよう運営して参ります。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

総病床数が69床と少なく今後も有効に活用していきたいと思っております。

今のところ、建て替えや施設への転換は考えておりません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

なるべく在宅への支援をするようにしております。

<訪問診療>

現在はしておりません。

<後方支援>

現在はしておりません。

<看取り>

現在はしておりません。

【病院プロフィールシート】

病院名 あおもり協立病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	135	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	88	急性期(b)	135
		回復期(c)	88
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	223	計(a+b+c+d+e+f)	223

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	135	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	88	急性期(h)	135
		回復期(i)	88
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	223	計(g+h+i+j+k)	223

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は現在病床機能報告上、全5病棟のうち3病棟を（いずれも急性期一般入院料4.）急性期病棟とし、2病棟を回復期リハビリテーション病棟として報告しています。
- ・現状、病床稼働率が高い水準で稼働していることから病床機能の見直しは検討しておりません。

平均在院日数 一般：16.88日

病床利用率 一般：89.6% 療養：99.7%

病床稼働率 一般：95.0% 療養：101.2%

診療科 合計1科
(内科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、白取医院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、おひさまクリニック、青森市民病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・当院では、脳梗塞や肺炎に罹患した高齢患者の入院が多い一方で、循環器領域では急性心筋梗塞や急性心不全に対応した心臓カテーテル検査や経皮的冠動脈形成術、ペースメーカー植え込み術を実施しています。その他、下肢血管の狭窄部の拡張術も実施しています（日本循環器学会循環器専門医研修関連施設認定・2017年4月）。また、消化器領域では内視鏡的手術（胃十二指腸粘膜切除術や内視鏡的乳頭切開術等）を実施しています（日本消化器内視鏡学会指導連携施設認定・2018年12月）。新専門医制度の施行に伴い、当院は内科分野において青森県立中央病院の連携研修施設となりました。

・救急告示病院として青森市内2次輪番制に参加し、救急医療提供体制に寄与しています。

・当院はDPC病院Ⅲ群として厚生労働省より認定を受けております。今後もDPC病院Ⅲ群としての医療提供を継続できるよう、地域との連携をさらに強めてまいります。

・青森県立中央病院、青森市民病院と回復期病院とで行われている脳卒中・大腿骨頸部骨折連携パスの回復期病院として積極的にその役割を担っており急性期病棟と共に回復期病棟の役割は必要と考えます。

・当院は入院医療にほぼ特化しており、外来部門は隣接の協立クリニックが担当しています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・病床稼働率が高い水準を維持していることから、病床規模の見直しは検討していませんが、今後、当圏域での緩和医療の必要性和現状の緩和ケア病床数に鑑み、当院の一般病床と回復期リハビリテーション病床の一部を活用した、緩和ケア病棟の新設を検討しています。そのために2018年10月に日本緩和医療学会認定研修施設の資格を取得しました。但し、同病棟新設には医師体制の充実が必要不可欠であり、その時期については不確定です。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

退院支援看護師と専任の社会福祉士、介護支援専門員等が連携し、患者、家族の希望に沿った退院計画を立案し退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

病院と併設した協立クリニックでは、在宅医療管理患者数は380名、在宅看取りは年間117名（2018年度実績）となっています。また訪問看護ステーションを併設して地域に密着した医療を提供しています。

<後方支援>

併設した協立クリニックが訪問診療している患者の他に、当法人の他のクリニックが担当する在宅患者、介護施設に入所している方々が急変した際に、必要な受け入れを行っています。

<看取り>

看取り件数は増加傾向にあります。患者・ご家族に寄り添いながら対応を継続していきたいと考えています。

【病院プロフィールシート】

病院名 佐藤病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	0	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	36	急性期(b)	0
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	36
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	36	計(a+b+c+d+e+f)	36

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	0	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	36	急性期(h)	0
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	36
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	36	計(g+h+i+j+k)	36

(病床機能報告の内容の考え方について)

・当院は、現在、1病棟全てを療養病床慢性期として報告しています。

・将来的には少子高齢化等の影響もあり、患者様の大幅増加は見込まれることもない為、当面は現状維持で推移されるものと思料致します。

平均在院日数 一般：－ 日

病床利用率 一般：－％ 療養：55.2％

病床稼働率 一般：－％ 療養：55.2％

診療科 合計3科

(内科、外科、整形外科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、藤本クリニック

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

当院は、個人病院であることから、「地域のかかりつけ医」として身近な病院であることを目指し、より高度な医療機能を有する病院との連携に力を入れています。

今後もこの方向で進めていきたいと思えます。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

現在、病床稼働率は低下しているが、全般的に見直し・改革等を行っており、現況は維持改善できると推察し、現時点での病床規模の見直しは考えておりません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

ご家族から在宅医療の希望があった場合取り組みしていきます。

<訪問診療>

要望があり次第訪問診療を行っていきます。

<後方支援>

要望がありません。

<看取り>

要望があれば積極的に対応していきます。

【病院プロフィールシート】

病院名 社会福祉法人敬仁会 青森敬仁会病院

病床数(床)

令和元年度病床機能報告 現在 (R1.7.1)

一般病床(A)	0	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	120	急性期(b)	0
		回復期(c)	60
		慢性期(d)	60
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	120	計(a+b+c+d+e+f)	120

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	0	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	120	急性期(h)	0
		回復期(i)	60
		慢性期(j)	60
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	120	計(g+h+i+j+k)	120

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院は、病床機能報告において回復期リハビリテーション病棟（60床）を回復期、療養病棟（60床）を慢性期として報告しております。

平均在院日数 一般：－ 日

病床利用率 一般：－％ 療養：89.54％

病床稼働率 一般：－％ 療養：90.45％

診療科 合計2科

(内科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、公立野辺地病院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、平内中央病院、石木医院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・回復期リハビリテーション病棟(回復期)においては、急性期病床退院後のリハビリテーションの提供を行っており、患者受入に際しては、青森市内医療機関の他、むつ市、野辺地町等市外からの受入もしております。

・療養病棟(慢性期)においては、地域からの慢性期治療の受入れ、医療依存度の高い患者に対するターミナルケアの提供等を行っております。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・現在、病床機能報告では回復期60床、慢性期60床、合計120床で報告しており、現時点で病床機能・病床規模の見直しは考えておりません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

MSW3名、全患者担当制。患者本人や家族と相談し、各地域担当と密に連携を図り支援しています。

<訪問診療>

なし。

<後方支援>

地域の開業医や入所施設とも連携し、円滑な受診や入院の受入れの対応をしています。

<看取り>

希望や必要時は入院での対応をしています。